

令和3年7月20日（火）

令和3年度1学期終業式 校長講話

1 はじめに

1学期間は、全国的に新型コロナウイルス感染症の勢いが収まらず、県内ではまん延防止等重点措置がたびたび延長され、ウイルスと共存する学校生活が続きました。皆さんには、登校時間30分繰り下げ、昼食の黙食、速やかに下校、など非常に窮屈な思いをさせていると思います。

しかし、授業は、止めることなく実施することができました。部活動も関東大会、インターハイが二年ぶりに実施されることになり、今年は、3年生も最後の大会に参加することができました。今年に入って関東大会出場を決めたのが、2月に吹奏楽部、1学期に、陸上部、バドミントン部、女子ハンドボール部、ラグビー部、ワンダーフォーゲル部でした。そして、全国大会には、陸上部、放送部、新聞部が出場を果たしました。その他にも多くの部活動が活躍してくれました。越谷南高校の底力を見せてもらった気がします。

2 「国際理解」・「異文化理解」とは？

■もっと英会話を意識して勉強してほしい！

私は、7月11日（土）に、野球部の県大会の応援に行ってきました。試合は、雨天コールドで見事勝利しました。その日は、天気が午後から崩れてくる予報でした。早めに集合して、試合まで2時間待つことになりました。試合中も雨と雷でたびたび中断して待ち時間がたくさんありました。その時間を、どう過ごすか思ったときに、ちょうど二人のALTが応援に来てくれていたので、これはチャンスと思い、私はずっと彼らと英語で話をしました。分からない単語はスマホで調べたり、「こう言いたいときは英語で何と言ったらいい？」と聞きながら、楽しい時間を過ごせました。

球場にはたくさんの生徒がいました。その時に、思ったのは、生徒は、なぜ、ALTと話さないのだろうかということです。私よりよっぽど英語を知っているだろうに。すぐ近くにネイティブがいてなぜ話しかけないんだろう。中には、「Hello」と挨拶する生徒はいますが、それ以上話そうとしないんです。いくらコロナで、会話を控えるといっても、多少会話したらいいのにと思いました。例えば、今時ですから「あなたはオリンピック開催に賛成？反対？」とか聞いてみたくないですか？

本校は、ALTのベース校になっていて2人のALTが毎日常駐している学校です。こんな恵まれた学校は多くありません。前任校は週に1日しかALTが来ませんでした。私は、よく外部の人に会うと「本校には外国語科があって、普通科も含めた国際理解教育や高い英語力が本校の強みです！」と宣伝しています。

先週も、外国語科の1年生が福島ブリティッシュヒルズに行って、生徒は、

英語漬けの二日間を過ごしてきました。たぶん、やればできるんだろうと思います。能力の問題じゃないんだろうと思います。

これからのグローバル化社会では、大学でも、会社に入ってもコミュニケーションスキルとして英語を使うことが多くなるんじゃないでしょうか。また、少子高齢化が進む日本では、深刻な労働者不足が課題です。2019年に入国管理法が改訂され、農業などの第一次産業や介護などの分野では多くの外国人労働者を求めています。今後、新たな在留資格により日本に居住する外国人はますます増加します。東京オリンピックはグローバル化の意識づけになるのではないかと考えていましたが、コロナで交流が途絶えてしまいました。アフターコロナでは、外国人労働者やインバウンドで社会の様相が一変するかもしれません。

■国際理解教育の壁となるのが日本人の恥の文化

電通の中川諒さんというコピーライターがいます。中川氏は幼少時代、ドイツやエジプトで過ごした経験があり、このほど『いくつになっても恥をかける人になる』という本を出版されました。氏は次のように言います。島国にいる日本人は Shy (恥ずかしがり屋) であるとよく言われる。それは、「周りと違う」ということに慣れていないからではないだろうか。」ドイツにしてもエジプトにしても陸続きで、歴史的にもたくさんの移民がいる。つまり、「違う」ことが当たり前の世界なのだ。「周りとは大体同じ」世界で育ったわたしたち日本人の多くは、自分が周りとは「違う」という状況にめっぽう弱い。言語を扱う「能力」以上に、言語と向き合う「姿勢」の違いが現れている。わたしたち日本人は、できないかもしれないことを「できる」と言うことに恥を感じやすい。

私はまさに、本のタイトル通り「いくつになっても恥をかける人間」でして、先日、ALT に、継続勤務の辞令を渡すときに「resignation」と失礼なことを言ってしまうと恥をかきました。[Official notice of appointment]が正しいそうです。でも、しゃべった単語は、忘れませんね。

■国際理解を通してこれからの選択肢を広げてみよう

徳島の女子高生が名門スタンフォード大学に合格したというニュースをテレビで見ました。カリフォルニアのスタンフォード大学は、世界大学ランキング2021でイギリスのオックスフォード大学の次にランクされています。ちなみに、日本は、東大が36位、京大が54位です。この2大学以外で200位以内に入る日本の大学がないというのは不思議です。

この生徒は、高2の夏に「アジアサイエンスキャンプ」に参加し、そこに集まった生徒が、「自分はMITを目指してる」と当たり前のように言うのを聞いて、自分だってできると奮起し、英語と課外活動に力を入れて猛勉強したそうです。

彼女の言葉で印象に残ったのは、「私はたまたま自分の“物差し”を認めてくれる場所が全部アメリカにあった。だから、“物差し”は他の場所に行って探し

てもいいと思う。もっと他に選択肢があると知って欲しい。」

よく、「人の物差しで自分を測ることはない」という言葉を聞くことがあります。ちょっと勇気の出る言葉ですよね。だからといって、根拠もなく、やみくもに自分を相手に認めさせようとするとは違うように思います。もしあなたに譲れない夢があるなら、自分を最大限評価してくれる「物差し」ととことん探してみることは大事なことです。それが彼女の場合、アメリカにあった、ということだと思います。

■まとめます

先ほどの中川氏は、「日本人の多くは、自分が周りとは「違う」という状況にめっぽう弱い。」と言います。価値観の多様化する現代では、周りとは「違う」のはむしろ強みだと思います。すでにある世界（社会）に自分（個）をかたち作することは悪いことではありませんが、個をしっかり磨いて自分の世界を開拓し、そこからコミュニティや社会を形成していくという逆のベクトルもあっていいのではないのでしょうか。

夏休み、あなたが本気でやりたいことは何か、本当になりたいものは何か、突き詰めて考えてみてください。そこから真の目標が生まれ、目標が定まれば一気に突き進めると思います。

夢をかなえた日本人として、今、注目を集めているのが、大リーガーで活躍している大谷翔平選手です。彼は、高校1年生のときにプロに入る夢をかなえるために「目標達成シート（曼荼羅のような表に、必要な行動をまとめたもの）」を作って、野球に打ち込んでいたという話は有名です。ちなみに、そのシートには「運」という項目があって、そのための行動として、「ごみを拾う」と書かれていました。大リーガーとなっても球場のごみを拾っている姿が注目されていますが、“ゴミを拾うことは運を拾うこと”を、高校時代からずっと続けているんですね。

徳島の女子高生や大谷選手のように、強い信念とたゆまぬ努力があれば夢はきっと実現できます。

3 おわりに

明日から、夏休みに入ります。皆さんへの一番伝えたいのは、命を守ること、これに尽きます。新型コロナウイルスから命を守ってください。熱中症から命を守ってください。台風・豪雨など自然災害から命を守ってください。そして自らの命を大切にしてください。